

最近の雇用情勢に係る指標について

R5.10.31 産業労働部労働雇用課

1 有効求人倍率（令和5年9月分）（季節調整値）

（厚生労働省・長野労働局 R5.10.31 発表）

- 全 国 1.29 倍（前月と同水準）
- 長野県 1.45 倍（前月 1.44 倍と比し 0.01 ポイント上昇）（全国第 10 位（前月第 11 位））
（前年同月 1.57 倍と比し 0.12 ポイント低下）

【参考—新規求人倍率（季節調整値）】

- 全 国 2.22 倍（前月 2.33 倍と比し 0.11 ポイント低下）
- 長野県 2.26 倍（前月 2.33 倍と比し 0.07 ポイント低下）（全国第 15 位（前月第 13 位））
（前年同月 2.48 倍と比し 0.22 ポイント低下）

【参考—就業地別の有効求人倍率（季節調整値）】*

- 長野県 1.58 倍（前月 1.57 倍と比し 0.01 ポイント上昇）（全国第 7 位（前月第 8 位））
（前年同月 1.69 倍と比し 0.11 ポイント低下）

【参考—正社員関連指標：実数値】

- 正社員有効求人倍率
長野県 1.17 倍（前月 1.16 倍と比し 0.01 ポイント上昇）
全国平均 1.02 倍（前月 1.01 倍と比し 0.01 ポイント上昇）
- 新規求人に占める正社員割合
長野県 44.5%（前月 47.6%と比し 3.1 ポイント低下）
全 国 47.8%（前月 47.0%と比し 0.8 ポイント上昇）

「本県の有効求人倍率（季節調整値）」

過去最低はH21年7月及び8月の0.39倍。H26年1月（1.01倍）以降117か月連続で1倍を上回って推移中。H30年8月には1.73倍を記録。R2年3月に1.4倍を割って以降急速に低下し、R2年7月及び8月には1.01倍まで低下。その後、上向き傾向となり、R4年11月にはコロナ禍以降の最高値となる1.60倍まで上昇。

「全国値（季節調整値）との比較」

H26年7月以降H31年1月まで55か月連続で全国値を上回る。H31年4月以降4か月連続して再び全国値を上回るも、R元年10月以降は下回って推移。R2年10月に全国値を上回るに至り、以降36か月連続して上回っている。なお、就業地別の有効求人倍率では、R2年8月以降38か月連続で全国値以上で推移中。

※ 就業地別の有効求人倍率 … 事務所や工場、店舗など、実際に働く地域で集計した求人倍率。大企業等は求人票を本社で一括して提出することが多く、求人票の受理地を基にした従来値では、本社のある都市部が実態よりも高くなりやすい傾向があり、H26年6月発表分から参考値として公表。

2 完全失業率（季節調整値）

（総務省統計局「労働力調査」R5.10.31 発表）

- 全 国（令和5年9月分） 2.6%
（前月 2.7%と比し 0.1 ポイント低下） *過去最高は、5.5%（直近は H21.7）
（前年同月 2.6%と同水準）
- 長野県（令和5年4月～6月期の推計値） 2.1%
（前期=R5.1～3月期の 2.2%と比し 0.1 ポイント低下） *過去最高は 4.6%（H22.1～3）
（前年同期=R4.4～6月期の 2.2%と比し 0.1 ポイント低下）
※ 都道府県別完全失業率は推計値として四半期ごとに発表（直近の発表は前々回）

3 長野労働局発表の雇用情勢（令和5年9月分）

（長野労働局 R5.10.31 発表）

（6か月連続同じ）

- 雇用情勢は、堅調に推移している。ただし、物価上昇等が雇用に与える影響を注視する必要がある。

参考:R5. 4～	「雇用情勢は、 <u>堅調に推移している</u> 。ただし、物価上昇等が雇用に与える影響を注視する必要がある。」
R5. 1～3	「雇用情勢は、 <u>着実に改善が進んでいる</u> 。ただし、物価上昇等が雇用に与える影響を注視する必要がある。」
R4. 4～R4. 12	「雇用情勢は、 <u>着実に改善が進んでいる</u> 。ただし、引き続き新型コロナウイルス感染症や国際情勢の動向が雇用に与える影響を注視する必要がある。」
R3. 6～R4. 3	「雇用情勢は、一部に弱い動きが続いているものの、 <u>着実に改善が進んでいる</u> 。」
R3. 2～5	「雇用情勢は、 <u>一部に弱い動きが続いているものの、改善が進んでいる</u> 。」
R2. 12～R3. 1	「雇用情勢は、 <u>新規求人の改善が進んでいる</u> ものの、なお、弱い動きが続いている。」
R2. 10～11	「雇用情勢は、求人が求職を上回り、新規求人に改善がみられるものの弱い動きが続いている。」
R2. 9	「雇用情勢は、求職者が求人をおらずながら上回り、 <u>新規求人に改善がみられるものの弱い動きが続いている</u> 。」
R2. 7～8	「雇用情勢は、求職者が求人をおらずながら上回り、 <u>求人が鈍化傾向にあるなど弱い動きとなっている</u> 。」
R2. 6	「雇用情勢は、求人が求職を上回っているものの、 <u>求人が減少</u> しており弱い動きとなっている。」
R2. 5	「雇用情勢は、求人が求職を上回っているものの、 <u>求人が大幅に減少</u> しており弱い動きとなっている。」
R2. 4	「雇用情勢は、求人が求職を上回っているものの、 <u>求人が減少</u> しており弱さがみられる。新型コロナウイルス感染症の影響等について一層注意する必要がある。」
R2. 2～3	「雇用情勢は、 <u>堅調に推移してきたところ、国内外における新型コロナウイルス感染症の影響等について一層注意する必要がある</u> 。」
H31. 3～R2. 1	「雇用情勢は、 <u>堅調に推移している</u> 。」
H28. 1～H31. 2	「雇用情勢は、 <u>一層堅調に推移している</u> 。」
H28. 11	「雇用情勢は、 <u>引き続き堅調に推移している</u> 。」
H28. 1～10	「雇用情勢は、 <u>堅調に推移している</u> 。」
H27. 8～12	「雇用情勢は、 <u>着実に改善が進んでいる</u> 。」
H27. 4～7	「雇用情勢は、 <u>一部に弱さがみられるものの、着実に改善が進んでいる</u> 。」